

## 偽預言者を警戒せよ

主は弟子たちに「狭い門から入れ」と言われてこの世における弟子たる者の道を示されたが、キリスト者の生きる道は、主が言われたように、確かに狭く、細い道である(7:13～14)。そこには困難があり、葛藤があり信仰の戦いがある。その戦いをさらに困難にするものは、キリスト者をこの狭い道から迷わせようとする者の存在、しかも外部からではなく内部から起って来る「偽預言者」の存在である。この偽預言者を警戒せよと主は言われる。

偽預言者の「にせ」性は、それが本物と見分けがつけにくというところにある。旧約聖書を読むと、モーセはエジプトから脱出し約束の国目指して進む民に偽預言者の出現を予告し警戒をうながし(申命記13:1～5)、預言者エレミヤは、神の厳粛なさばきの時が迫っているのに「平安だ、平安だ」と教えて民をまどわす偽りの預言者たちと対決している(エレミヤ6:14、8:11)。エゼキエルもゼファニアも彼らを民をまどわす「おおかみ」と呼んで、きびしく非難している(エゼキエル22:27、ゼファニア3:3)。

主イエスご自身、そのご生涯において偽りの教師たちと対決され、また終末の出来事を告げるメッセージの中で、そのような偽預言者たちが「世の終わり」に出現し、人心をまどわすことを予告され、だから惑わされないように目を覚ましていなさい、と警告された(マタイ24:11、23～28)。

使徒ペトロは教会の中に入り込んでいる「偽教師」について語り(第2ペトロ2:1～3)、パウロは彼らを「光の天使に偽装したサタンの手下ども」と呼び(第2コリント11:13～15)、そのような存在がキリストの教会の中に入り込み、教会を混乱させるので注意しなさいと警告した(使徒言行録20:29)。使徒ヨハネも「愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうか確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです」と警告し、すべてのキリスト者が霊的識別力を持つようにとうながしている(第1ヨハネ4:1、第1テサロニケ5:21、フィリピ1:10参照)。

教会の歴史は、外部からの迫害だけでなく、教会の中にひそかに入り込み神の福音の真理を曲げ、キリストの教会(キリスト者)を真理から踏み外させようとする「偽預言者、偽教師」との戦いの歴史であったと言ってよい。信仰の先人たちは、その戦いを通して福音の真理を、時には殉教の死をも恐れず守り通し、それを今日まで伝えて来た。

「偽預言者たち」や「偽教師たち」は、今日でも、いろいろな形を取って入り込んで来る。モルモン教やエホバの証人や統一教会のような明白な異端だけではなく、伝統的な教会の中にも主イエスの神性を否定し、十字架の死による罪の贖いの真理及び復活の事実を否定し、こうして福音の恵みを相対化する人たちが存在する。私たちは「聖なる者たちに一度伝えられた信仰のために戦うこと」(ユダの手紙3)を忘れず、しっかりと自分を守り、また福音の真理が正しく語られ信じられるよう励む者でありたいと思う。

そのためには、まず御言葉を熱心に学び、福音の真理をしっかりと身につけること、第2に教会生活を正し、礼拝をよく守り、神との関係をいつも正常に保つこと、第3に熱心に祈り、神の知恵と力を求めること、最後に教会の交わりを大切に、互いに励まし合っていくことが大切である。